

マイライン機能の扱い等について

2016年11月4日
総務省
総合通信基盤局

- NTTは、これまで電話網移行円滑化委員会等において、以下の考えを表明。
 - 移行後のIP網において、「マイライン機能」を具備しない。
 - 代替手段として、事業者識別番号(00XY番号)によるルーティング機能を用いた「中継選択機能」及び「メタルIP電話の通話サービス卸」を提供可能。
- その後、NTTに対して「事業者識別番号(00XY/0AB0)を用いた中継選択機能」及び「メタルIP電話の通話サービス卸」の具体的内容について聴取したところ、以下の回答が示された。
 - 「メタルIP電話」における「00XY番号を用いたサービス」及び「0AB0番号を用いたサービス(着信課金・大量呼受付・全国統一番号等)」については、その実現に必要な費用を要望事業者を全額負担することを前提に、指定されたサービス提供事業者網へのルーティング機能を新たに具備する。
 - 「光IP電話(ひかり電話)」については、「(一部の番号を除く)0AB0番号」(下表参照)への発信は現在も可能であり、IP網への移行後も、現在と同様に発信を可能とする考えである。他方、ひかり電話における「00XY番号によるルーティング機能を用いた中継選択機能」については、現在も具備しておらず、IP網への移行後も実施する考えはない。
 - 「メタルIP電話の通話料」及び「メタルIP電話の通話サービス卸」については、「距離に依存しないIP網の特性を活かし、より使いやすい料金(ひかり電話と同様に全国一律のフラットな料金)」とすることを考えている。「メタルIP電話の通話サービス卸」の料金水準及び提供条件については、現時点で、事業者毎に異なるものにする考えはないが、事業者の要望も聞きながら、サービス仕様の検討を早急に進め、提供に要する費用や需要を踏まえ、なるべく早期に示したいと考えている。

【NTT東日本・西日本の光IP電話(ひかり電話)から発信可能な「0AB0番号」サービス】

| 電話番号 | サービス名等 | 可否 |
|-----------|------------------|----|
| 0120/0800 | フリーアクセス/フリーダイヤル等 | ○ |
| 0170 | 伝言ダイヤル | × |
| 0180 | テレドーム | ○ |
| 0180 | テレゴンク/デートドーム | × |
| 0570 | ナビダイヤル | ○ |
| 0910 | 公専接続 | × |
| 0990 | 災害募金番組 | ○ |

- 第17回電話網移行円滑化委員会(2016年7月28日)での「マイライン機能」等に関する検討において、委員から示された主な意見は以下のとおり。

主な意見

- メタルIP電話だけの議論に徹してしまうと方向感がなくなる。将来の最終的な方向として光IP電話の提供形態で事業者選択を実現すべきかを整理する必要がある。当初の目的からすると、光IP電話の提供がこれまで志向してきた形態。これにいかに早期に移行するかという方向性で考えていく必要がある。
- 「マイライン相当機能」で新たに開発が必要となり、事業者選択を手回しで行う場合もメタルIP電話を卸で行う場合も、いずれにしても開発コストがかかるということなら、それらのコストを明らかにしないと比較できない。競争状況やユーザー利便がどう変わるのか、最終ゴールである光IP電話へ移行する上でどうなのか、そのまま活用できるのか、新たな開発が必要なのか、暫定解としての開発が合理的なのか、等をしっかりと比較・検討していくことが必要。
- 現状のマイラインユーザは、法人と一般家庭を分けて考えなければいけない。一般家庭を考えると、マイライン導入時は非常に激しいお誘いにより選んだ記憶はあるが、現在どこを選んでいるのか把握している状況なのか、を考えると現状としては「みなし契約」は難しいのではないかと。今残っている契約をどこまでユーザが意識しているのかの現状はしっかり見たほうが良い。いずれにせよ、最終的にIP網に移行していく段階で同じような形の競争が起きて、料金の引き下げにつながるが見えていて、マイラインをどうするのかという議論は絶対必要。
- 公正競争環境を維持していくことは原則必要と考えるべき。そのために一定の負荷・コストを要することはやむを得ない選択であり、一定の利用者が現存するマイラインサービスについても同様。しかし一定の事情があり、その原則に従うことができない理由があるのかどうかを見極める必要があり、①実際の利用者の数に比して「マイライン相当機能」の開発コストが大き過ぎるのであれば考える必要があるが、その前提で、実際の開発に要するコストはどの程度なのかのデータが必要、②光IP網への円滑なマイグレーションそのものを阻害するおそれはないのか、③距離に関係ない料金体系が考えられていく中で、マイライン機能を維持した場合に、結果的に利用者保護につながらない可能性もあるのか、といった3点が重要ではないか。

主な意見(続き)

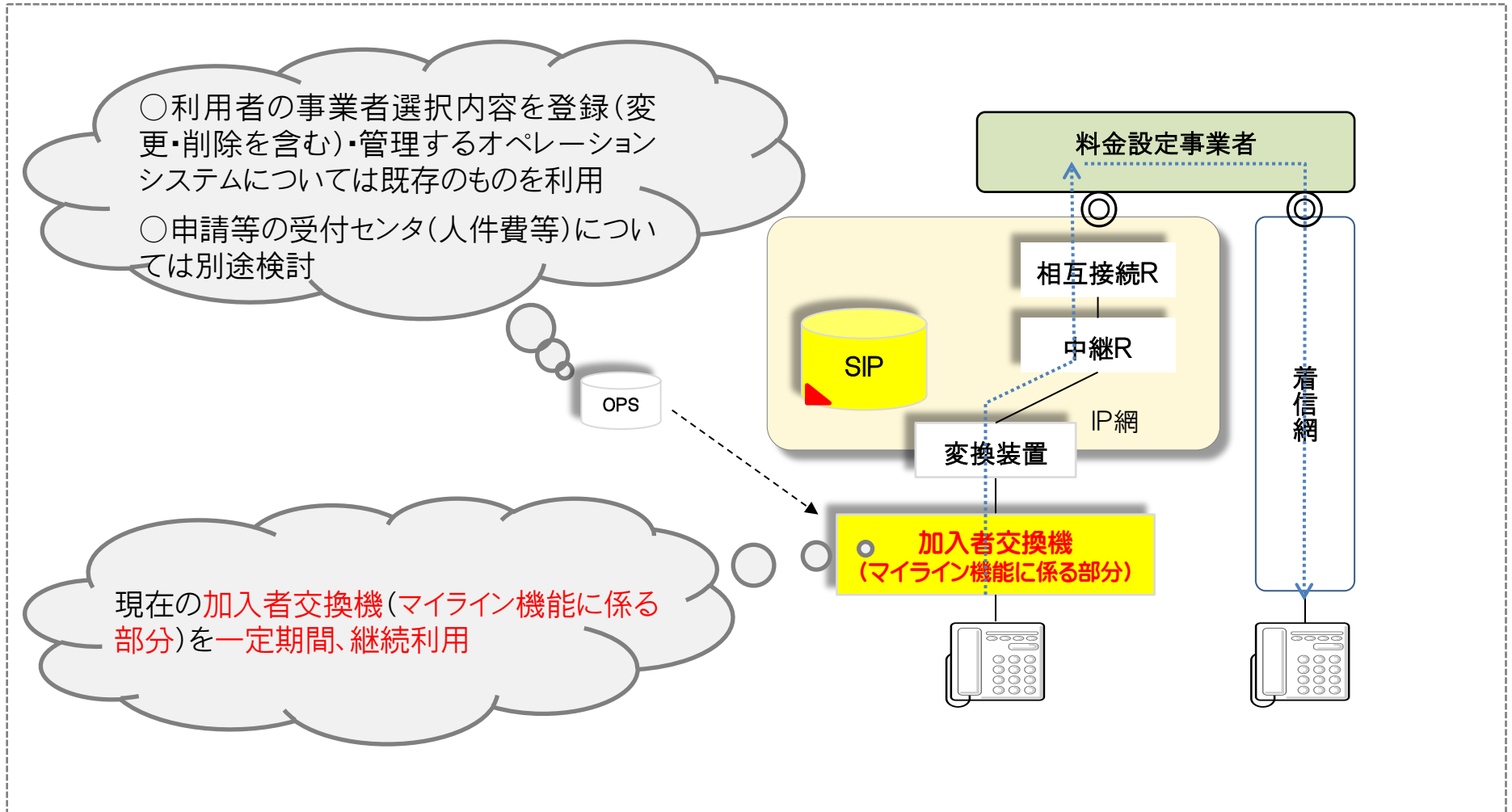
- マイラインの代替サービスとしてNTTが提案されているメタルIP電話の卸サービスについては、提供条件が具体的にどういふものなのかがもう少し明らかにならないと検討できない。メタルIP電話の卸サービスの料金が相対のような取引で提供されることになると、競争事業者の競争力をNTTがコントロールできる状態になるのではないかと思うので、総務省による監視と届出・認可などのルールづくりが必要。
- 正直なところ、マイラインが必要なのではなく、顧客とのタッチポイントや既存顧客を失いたくないことが本当の目的であって、それができれば別にマイラインでなくても良いのが本当のところではないか。そうすると、競争環境を確保する制度的な問題を、時代の流れに逆行するような技術の問題に置きかえてしまうことは合理的ではないように思う。したがって、マイラインだけに閉じて考えるのではなく、マイライン以外の可能性や手段によって競争環境を確保するためにトータルで色々な施策や機能、技術により競争環境を維持する考え方があって良いと思う。番号ポータビリティも含めてトータルで考えていただきたい。
- 固定の中に閉じた議論でいうとマイラインは古いという議論もあるが、固定発・携带着でいうと、過去に料金設定権を持つ携帯事業者に競争的な料金にさせていただくようお願いをしたところ、NTTドコモだけが下げて、KDDI、ソフトバンクは全く知らんぷりだった状況の中で、中継事業者を介することで値段が下がっており、ここは中継事業者が今でも明示的に頑張っているところ。固定電話の契約者数や通話料収入が減少している姿が見えているかもしれないが、固定内に閉じた議論だけではなく、固定発・携带着の分野で中継事業者の存在が光っていることに着目してもよい。
- メタルIP電話で色々な代替案が出ているが、最終形は光IP電話なので、そこに至る過程で開発や設備投資等を行うことが将来的には負の遺産にならないよう、最終形で中継選択機能、マイライン等を具備すべきかどうかをはっきりとさせて議論を進めるべき。
- 光IP電話のサービス提供形態を見据えた上での議論が基本。そのために、コスト、代替サービスの内容、想定される競争環境について情報がもう少しあったほうが良い。これらを踏まえた作業を進めてほしい。

IP網 (NGN) で実現する「マイライン相当機能」の開発等のイメージ

○ 仮にIP網 (NGN) にマイライン相当機能^{*1}を具備した場合に想定される開発等のイメージ^{*2}は下表①のとおり。比較のため、②00XY番号ルーティング (手回し) による事業者選択 (中継選択機能) 及び③メタルIP電話の通話サービス卸の場合についても下表に示す。 ^{*1} ユーザが回線毎に事前に登録した事業者のネットワークを選択して、通話サービスを実現する機能を前提。 ^{*2} 事業者間精算に係る機能は除く。

| | ①マイライン相当機能による事業者選択 | ②00XY番号ルーティング (手回し) による事業者選択 (中継選択機能) | ③メタルIP電話の通話サービス卸 |
|--------------|--|--|--|
| 実現方式 (イメージ) | <p>⑤料設事業者が着信先ヘルレーチング ※大宗は同一POIビル内で料設事業者のルータ(SW)を1台通過させるのみ</p> <p>②発信呼がマイライン対象呼か否かを判別 ③マイライン対象呼の場合、DBを参照し、発信ユーザ毎の登録内容を確認し、00XYを付与 ④当該00XYを認識し、該当事業者ヘルレーチング</p> <p>①通常の発信</p> | <p>③料設事業者が着信先ヘルレーチング ※大宗は同一POIビル内で料設事業者のルータ(SW)を1台通過させるのみ</p> <p>②ダイヤルされた00XYを認識し、該当事業者ヘルレーチング</p> <p>①00XYをダイヤルして発信</p> | <p>(料設事業者の装置は経由しない)</p> <p>料金設定事業者 (卸先事業者)</p> <p>(通話の流れは通常の通話と同様)</p> |
| 開発・追加等が必要なもの | | | |
| 主な必要機能 (案) | <ul style="list-style-type: none"> • 利用者の選択に基づき回線毎に事業者選択内容を登録する機能 • マイライン相当機能の対象外呼 (フリーダイヤル等) を識別する機能 • 通話の都度、回線毎の事業者選択内容に基づき事前登録されている事業者識別番号を付与する機能 • 付与された事業者識別番号に基づきルーチングさせる機能 • マイラインプラス相当機能まで具備する場合には、発信者がダイヤルした事業者識別番号に代えて、回線毎の事業者選択内容に基づく事業者識別番号を付与等する機能 | <ul style="list-style-type: none"> • ユーザが手回しをした事業者識別番号に基づきルーチングさせる機能 | — |
| OPS・センタ等 | <ul style="list-style-type: none"> • 上記利用者の事業者選択内容を登録 (変更・削除を含む) ・管理するオペレーションシステム • 利用者・事業者からの申請・問い合わせを受け付ける事業者共通のセンタ | — | <ul style="list-style-type: none"> • 卸対象回線を管理・識別するオペレーションシステム |

- 現在の加入者交換機（マイライン機能に係る部分）を、IP網への移行後（2025年頃以降）においても一定期間、継続的に利用して、現在のマイラインサービスを簡便な形で継続提供することを想定した場合のイメージは以下の通り。



これまでの本委員会における検討等を踏まえ、「マイライン機能の扱い等」について、検討の視点を以下のとおり整理。

- **マイライン機能により、電話サービスの利用者が(事業者識別番号をダイヤルしなくても事前登録により)簡便な手順で中継事業者を選択することが可能となり、(NTTと他の中継事業者でダイヤル桁数が同じであるため)提供条件の公平性が図られてきた。このような「競争基盤の提供」や「事業者選択可能性」の観点からマイライン機能が果たしてきた役割を今後も維持していくことは重要。**
- **他方で、マイラインの通話料は2005年以降ほとんど変化が見られず、距離に応じて設定された通話料は事業者間で大きな差がなく、IP網においては距離に依存しないサービスへと競争環境が変化していく可能性がある。**
- **IP網において「競争基盤の提供」や「事業者選択可能性」を確保するには、その手段として、「利用者が事業者を変更した場合に桁数を変更せずに(4桁の事業者識別番号をダイヤルせずに)元の電話番号を利用可能とすることの担保」が考えられるのではないか。その場合、光IP電話においては、「番号ポータビリティ」及び「NGNの優先パケット識別機能等のアンバンドル」による競争環境整備が確実に担保されるのであれば、IP網(NGN)において中継電話に相当するサービスの競争環境を確保されることとなるのか、どうか。**
- **そのような中で、事業者においては、現在も一定規模の登録数^{※1}を有するマイラインの顧客基盤(タッチポイント)を確保する等の観点から、マイライン代替機能についての検討^{※2}が行われているところ。これについては、事業者が提案・検討する具体的内容を聴取した上で、本委員会での検討を進めることが適当ではないか。**
 - ※1 マイライン登録数は約7,142万件(各通話区分で見ると約1,600万件～約1,900万件)(2016年3月末)
 - ※2 NTTは、マイライン代替機能として「メタルIP電話の通話サービス卸」及び「00XY番号を用いた中継選択機能」を提案
- **マイライン又は代替機能の利用については、ニーズやコスト等を踏まえて検討・判断されるものであることから、まずはNTTから上記それぞれの場合のコストを明らかにされることが必要ではないか。**
- **これら代替機能がNTTにより提供される場合は、その提供条件において適正性・公平性・透明性が確保されるよう適切な措置を講じることが必要ではないか。その前提として、NTTにより「メタルIP電話」の具体的な提供条件や設備構成等を明らかにされることが必要ではないか。**